

第2回 羅臼湖部会 議事概要

日時：平成23年9月27日(火)17:00～20:00

場所：羅臼ビジターセンター レクチャールーム

1. 開会

- ・ 井上根釧東部森林管理署長挨拶
- ・ 配布資料確認

2. 議事

(野川) 議事進行

本日は次の3つについて議論していきたい。

- (1) 歩道の保全修復のためのルート付替について
- (2) 歩道の保全修復のための対策工法について
- (3) その他（羅臼湖の利用のあり方の修正案）

- (1) 歩道の保全修復のためのルート付替について

(三宅) 資料説明

- ・ 各資料の主な内容を説明。

(野川) 先に説明したルート案についてご意見を頂き、最終的なルートを決めていきたい。

(梶岡) 資料1-2・9ページに写真（ルート：ア）があるが、写真はハイマツの上に乗って撮影したものと思われ、実際に同様に眺望できるかは疑問。ルートを付けるのは可能だが、眺望の確保のためにハイマツを大幅に伐採するなどは難しいので、それを踏まえた上で検討をお願いしたい。

(遠嶋) 湿原の乾燥化は、これまで杭が泥炭層を突き抜けて起こると思っていたが、そうではないということか。

(野川) 二の沼については泥炭層がないので杭の影響はない。羅臼湖の最終展望台では、杭の影響があるかもしれないということ。

(遠嶋) 杭を斜めに打ち込むなどで対処できるのであれば、羅臼湖最終展望台への現道をそのままにしておけないのかと思うが。

(三宅) 杭が泥炭層を突き抜けて湿原全体が乾燥化することではなく、杭が陽に当たり高温になるなどして、杭の周辺の乾燥化が進むということ。また、大勢の人が現道を利用することで液状化の懸念もある。

(佐々木) 梶岡氏が先ほど話されたルート：ア)の展望についてだが、頂上からでも眺望できないのか？

(梶岡) そこまで確認できていない。もしかすると、ルートを付けても眺望できないおそれがある。この結論については保留とし、来年度の議題として持ち越せばよいと思う。

(佐々木) 全体的に笹や林内のルートが多く、魅力を伝えられないルートになっているのではないか。二の沼へのルートについて、斜面を通して大量のハイマツを切るより、希少種を保全するための対策をして、沼の近くを通すルートとすることはできないのか。グレーチングなどのよい工法があるのであれば、積極的に利用してみるのもよいのでは。

(田澤) 佐々木氏と同じ意見だが、希少種にダメージを与える恐れがあるのであれば、ルートを通さないほうがよいと思う。しかし木道などでしっかり対策ができるのであれば、希少種への影響はないのではないか。希少種があるだけで、ルートが迂回されるというのは理解しがたい。

(柳澤) グレーチングについては各地に使用例はあるが、まだ検討段階。

(三宅) ルート全体として施設はなるべく減らしたいと考えている。また、二の沼近くを通さなかった理由として、水際は環境変動が大きく、土砂の流入などで付替ルートが再び荒廃することも危惧されることから、環境変動がより少ない斜面をトラバースするルート案とした。

(佐々木) 最終的に木道が必要な箇所もでてくる、いろいろな工法を合わせて、インパクトの少ない木道を作っていくことが大事だと思う。

(田澤) 三の沼は対岸への木道を繋げないで、迂回させるということか？

(三宅) そのとおり。当初、ウ)のルート案としていたが、湿原を渡るために木道を設置することから、迂回するルートにしたいと考えている。

(石田理)エ) のルート案については、特にメリットもないと思うが。

(三宅) そのとおりで特にメリットがないので、木道の区間を少なくできるピンク色のルートに変えたいと考えている。

(石田理) そういうことであれば、エ) のルート案については廃案でよいということか。

(三宅) それでよいと考えている。

(石田理) カ) のルート案は何のために設定したのか。希少種があるので、それを避けるためか。

(三宅) カ) のルート案は当初案で、前回会議でもう少し大回りのルートを検討してはどうかという話になった。また、既存の木道部分をできるだけ少なくする観点からも、ピンク色のルートおよびオ) のルートを提案した。

(野川) 各ルート案の確認をしたいと思う。基本的にはピンク色のルートとして、

ア) ルート案については、については保留

イ) ルート案については、工法検討等の余地があり

ウ) ルート案については、迂回するという事で廃案

エ) ルート案については廃案

オ) ルート案については検討の余地があり

カ) ルート案については廃案

ルート案のア) については保留、ウ)・エ)・カ) 案については廃案、イ)・オ) 案については、このあとの工法についての説明後、再度確認をとるということでよろしいか？

⇒参加者の了承を得る。

(2) 歩道の保全修復のための対策工法について

(野川) 対策工法の方向性や考え方について、皆様のご意見を頂きたい。

(三宅) 資料説明。説明後、質疑に移る。

(佐々木) 前もって資料を配布してくれないと、今、資料を見せられてもすぐにはわからない。

(田澤) 枕木のデメリットについてだが、杭よりもかなりの面積を覆うことになり、植物が

生えなくなるが大丈夫なのか？ どういったものを使うのか、防腐剤などは使用するのか？

(柳澤) 枕木に使用する木材は防腐剤を使用しないものとし、枕木の幅ももう少し小型化できればと考えている。

(田澤) 枕木を使うことを、植生の専門家などにも説明したのか。

(三宅) 説明済み。植物のことを考慮すると枕木の方が影響は少なく賛成とのことだった。

(石田理) 四の沼～五の沼間に対策として自然石による流水コントロールが挙げられているが、あの場所は大雨の際はかなりの水量となるので、それらを想定した対策を実施する必要がある。また、流量が多いため、石は流されてしまうのではないかと個人的にはルートが付替えても良いのではないかと考えている。

(三宅) ルートの一部付替えについては検討したいと考えている。

(柳澤) 分散排水溝の考え方など、使える技術で施行していきたいと考えている。

(佐々木) 羅臼湖は石が少ないのが問題。

(野川) 対策工法を踏まえて、イ)・オ) 案について何かご意見は？

(梶岡) 新しいルートについては、できれば今年中にルートを決定して、伐採協議を終わらせ、来年度早々に着工できればと思っている。本日中にルート決めて頂けるとありがたい。仮に今年中に決まらなければ、また少し時間がかかってしまう懸念がある。

(上野) ハイマツは伐採しないと道幅を確保できないため、伐採本数を調査して申請書類を作成する必要がある。今年度中にルートを決めてもらえれば、現地で最少限の伐採で済むように調査をして、早めに手続きを進めて行きたいと考えている。

(梶岡) 二の沼の近くに木道などを設置する場合、予算の都合上、来年度に必ず施工できる保証がない。イ) 案を開設したはいいが、木道ができていないという事態は避けたい。

(田澤) ア) のルート案は保留でよいが、イ) 案については、予算の関係もあり早めに結論を出したいということか。

(梶岡) そうである。

(石田理) ガイド協議会としては（ウトロ側の所属ガイドも含め）、本会議で決まったルートに異存はない。羅臼側に任せるという了承を得ている。

(長谷川) 観光協会としても、ルートについては実際に利用する方の意見を尊重するという立場である。

(上野) ルート案（ピンク色）だとかなりのハイマツを伐採しなければいけないが、二の沼付近を通るルートだと、融雪期に水が二の沼に流入する可能性があるので、斜面を通すのが良いのではと考えている。

(田澤) 図面上、ピンク色のルート案は結構迂回しているが、実際は二の沼と付替ルート案の間を通るイメージではないのか。もう少しルートを下げれば二の沼に近づけるので良いのでは。

(上野) 実際の現地では、ハイマツを避けながら、少し下げることにはできるかもしれない。ハイマツの樹高が低いので、二の沼も見えるようになるかもしれない。

(佐々木) 遺産協議会ともしても提案付替えルートで了承する。

(田澤) 現場での調査の際には、できるだけ下げてルート設定を行って頂きたい。

(梶岡) 了解。現地調査で確認するが、おそらくルートをもう少し下げるのは可能だと思う。また、現地調査の際に同行して頂ければと思う。

(野川) オ) のルート案についてはいかがか？ピンク色ルートが良いか、オ) のルートが良いか、ご意見頂きたい。

(石田理) オ) のルート案は展望としてはどうなのか？特に展望がないのであれば、直線にこだわる理由もないのでは。ただ、それ以上の理由があるのであれば、オ) のルート案でも良いと思う。

(佐々木) 展望としては同じ。メリットとしては、その先の木道を撤去できること。維持管理の必要がなくなる。

(田澤)新しくまっすぐなルートをつけて、ルートが新たにぬかるむ可能性はないのか？

(佐々木)それは有り得ると思う。

(三宅)またオ) ルート案だと、いくつか沢を越えなければいけない。そうすると何らかの施設が必要となる。そういうことから、今の施設を活用する付替ルート案がよいのではないかと考えている。

(石田理)付替ルート案だと、最近補修した橋も活用できるのか？

(三宅)橋より羅臼湖側から迂回するイメージである。

(佐々木)これも本日決めてしまうのか？

(三宅)この場でルートを決めることができれば、現地に詳細測量に入り、より具体的な工法の検討ができてスケジュール的にも早く進めることができる。

(長谷川)現場をよく把握している佐々木氏や石田氏が了解すれば、それでよいのでは。観光協会の湊氏も参加可能なように調整していただければありがたい。

(佐々木)オ)の候補ルートはガイド協議会の桜井氏も提案していたものであるので、同行してもらうのが望ましい。

(野川)ア)、イ)、オ)の候補ルートの細かい部分については、環境省、林野庁、石田氏、佐々木氏、湊氏、桜井氏とで現場を歩いて決定し、本会議はそれに一任するということがよろしいか？

⇒一同了承

(野川)グレーチングの使用案について、またぬかるみ箇所対策について、皆様のご意見をお伺いしたい。

(長谷川)せっかく整備するのであれば、自然に影響を与えない範囲で、耐久性の高いものを作って欲しい。

(梶岡)二の沼でのグレーチングの設置については、内田学芸員から歩道幅を狭く(40cm)

して、所々にすれ違い用の退避場を設置すれば良いのではという意見もあるがいかがか？
また、グレーチングを設置した場合、今の歩道の高さよりも低い位置になるため、融雪時期は水の中を歩くような状態になる可能性もある。

(佐々木) 歩道幅については、利用者のすれ違い等も考慮し、今ある幅(75cm)を最低限確保して欲しい。

(梶岡) 了解した。

(田澤) 利用者の動線についても考える必要があるのでは？例えば二の沼では、短い距離で往復することになる。

(柳澤) 例えば、枕木を退避場として利用するなども考えられる。

(田澤) ただ人がすれ違う場所ではなく、行き止まりで往復する場所などはスペースを考慮する必要がある。

(本間) 多くの人が集まる場所とすれ違うだけの場所では、考え方が違ってくと思う。

(田澤) 木道の長さによると思うので、実情に合わせて考えてほしい。少なくとも、すれ違うために木道から湿原に降りるといったようなことがないようにして欲しい。

(三宅) グレーチングのような人工物を置くことに対するご意見はいかがか？

(佐々木) 設置は問題ないのでは。

(須藤) グレーチング設置距離が長距離になるのは違和感があるような気がする。
また、設置方法によるかもしれないが、地盤のよくない湿原へ設置する場合、沈下を起こして段差が生じ、グレーチングが斜めになって滑りやすくなる危険性があるのでは。長距離ではなく、点として使用するものと考えてはどうか。

(田澤) 植物へのメリットを考えれば、広範囲で日光をさえぎる箇所については有効だと思う。耐久性は魅力的だと思う。

(石田順) グレーチングを受ける土台が木材であれば、少なくとも土台部分はメンテナンスの必要があるのでは。あと、やはり滑りやすいのではないかと思う。

(本間) グレーチングは人工物であり、羅臼湖の自然にマッチしないのではと懸念している。

(野川) 本日頂いたご意見はこちらで整理したい。設計の段階で再検討し、次回の部会でご報告するので、またその場でご意見を頂ければと思う。

(三宅) 今後のスケジュールについては、整備は環境省と林野庁とで分担して行う。入口からアヤマが原までを根釧東部森林管理署で、アヤマが原から羅臼湖までを釧路自然環境事務所で担当する。

早ければ来年度から着手できればと考えている。

(三宅) 資料 2-3 について説明

(3) その他

(三宅) 羅臼湖のあり方についての文言の修正内容を説明。

工法・アクセス・維持管理については今後検討したい。

(須藤) 資料 1-3 希少種の生息場所のデータ管理をしっかりとしたほうがよいと思うので、取り扱いに注意する必要があると思われる。

(野川) 了解。今日ご参加の皆様には、取扱注意ということをお願いしたい。また、本資料は公表資料であるが、環境省のホームページには希少種の生息場所データは載せないことにする。

(佐々木) 停車帯の進捗具合はどうか。

(須藤) 現在、横断測量を実施しているところである。その成果を以って検討を行う予定である。

3. 閉会

以上